地域別対話会（タウンミーティング）でいただいたご意見と回答　　R06.11.30　船穂コミュニティセンター

分類	NO.	対象地区	テーマ	参加者の発言	市長の発言	補足など	担当課
まちづくり	1	共通	マニフェストについて	マニフェストに掲げている5つの柱について、特に力を入れたいもの、実現が難しいものについて教えてほしい。	まちづくりで何を優先すべきか、いろいろと選択肢はありますが、やはり子育てが最優先だと私は思います。人がいなければ地域そのものが成り立たないからです。地域によっては子どもたちが増えているという特殊な状況もありますが、全国的には年間の出生数が70万件を下回ると言われています。一番多い時で200万人を超えていたので、現在はその3分の1以下です。 特に在来地区では子どもが少なく、私の集落でも22軒中子どもがいるのは3軒だけです。これは大きな問題だと思います。また、保育の質や子どもたちの教育環境も重要です。印西を選んでくれた子どもたちに最良の環境を提供し、将来も印西を好きでいてくれるようにすることが大切です。そうすれば、彼らがこの地域に戻ってきて未来を支えてくれると確信しています。地域が子どもたちを育て、愛し、彼らの可能性を伸ばせるような教育環境を作ることが一番だと思います。 その中で、高花小学校と原小学校についてですが、現在、原小学校の分離新設について議論を進めています。12月には保護者の方々に説明に伺う予定です。現状、原小学校区の生徒数が多いため、希望する生徒には高花小学校にスクールバスで通っていただいております。しかし、高花小学校区の学校まで距離があるお家にお住いの子どもたちは歩かなければならないという問題や、駐車場の轍の問題、先生方の残業や物資の遅れなど、教育現場には多くの課題があります。 教育委員会は市役所とは別に独立しており、政治家が直接関与することはできませんが、環境を整備するのは政治家の仕事です。現在、教育長と副市長と週に一回定例の打ち合わせを行い、様々な議題について議論しています。	—	秘書広報課
教育・子育て	2	共通	学校の公費について	現在、生徒数を基準に各学校へ降りてくる公費が定められていると思いますが、申請してから届くまで1年以上かかるものもあると伺っております。また、使えるメーカーや種類等、縛りが多く使い勝手がいいものではないというお声も伺っております。 改善されるよう検討をお願いしたいです。		—	教育総務課
教育・子育て	3	高花	通学の送迎について	学区が一部変更になった事や学区外からの受け入れをしていくことになり、自家用車で送迎を選ぶご家庭も多く、学校近隣に乗せ降ろしする為に登下校時は駐停車車両が多く、地域のみなさまからも危ないとご意見を頂いております。校庭に土を入れて轍を均す作業を先生方が休みの日に出てきて費用も学校の予算から捻出している。どうか市で対応を検討していただきたい。		—	教育総務課
教育・子育て	4	共通	不登校児の問題	小学生で21万人で5.3倍、13万人で2.2倍に不登校の方が増えている。この地域だけの問題ではないが、未来の宝をどう地域で守っていくか、頑張っていただきたい。	不登校の問題についてですが、これは非常に大きな課題です。現在、公式には小中学校で約300人の不登校の子どもがいると言われていますが、実際にはもっと多くの潜在的な不登校の子どもたちがいると考えられています。 そのため、学校内外のフリースクールを設けるなど、不登校の子どもたちの受け皿を作ることが最も重要だと思います。可能な限り多くの選択肢を子どもたちに示し、その中から選んでもらうことが基本です。 現在、印西市ではフリースクールに対する支援が一切ありませんが、来年度から何らかの支援を始められるよう、市として動いているところです。同じく子どもたちの居場所を提供しているフリースクールへの支援を進めていきたいと考えています。	—	指導課
教育・子育て	5	共通	病児保育について	病児保育が出来る場所が印西総合病院しかなくアクセスが悪い。千葉ニュータウン中央駅、印旛日本医大駅から距離がある。もう一か所増やすことはできないか。	病児保育についてですが、これも非常に多くの声をいただいています。現在、市内には一つだけ病児保育施設がありますが、駅から少し遠い場所にあります。そのため、潜在的に利用できない方が多いのではないかと思います。特に千葉ニュータウン中央駅や印旛日本医大から行くには、かなり時間がかかります。 理想としては、牧の原駅と千葉ニュータウン中央駅の周辺に一つずつ病児保育施設を増やすことが良いと考えており、その前提で動いています。来年度には間に合わないかもしれませんが、令和8年度に向けて準備を進めています。 また、全天候型の施設についても検討しています。いきなり市の建物を新設するのは難しいため、既存の建物、特に民間のものを利用して、試行的に全天候型の子どもたちが過ごせる施設を作れないかと考えています。来年度の初めには間に合わないかもしれませんが、現在検討を進めているところです。	—	保育課
教育・子育て	6	共通	全天候型施設について	全天候型施設を木下・小林地区に作るのはどうか。産業や雇用など人の流れが生まれる。		既存の施設を活用した整備にあたっては、その性格や機能に応じて、官民の連携・協働による取り組みを検討します。	子育て支援課
教育・子育て	7	共通	子育て支援施策について	出産費用、不妊治療の支援について検討していただきたい 保育士の処遇への支援をしてほしい。	出産や妊娠、不妊治療の支援についてですが、現在研究中です。ただ、子どもが生まれないと地域が成り立たないという大前提がありますので、国でもさまざまな支援が行われています。不妊治療についても一部保険が適用されていますが、市として追加的な支援ができないか検討していますので、少しお時間をいただければと思います。 保育士への支援についてですが、現在、市として独自に月額4万円の支援を行っています。国からも保育士の処遇改善について発表があり、ベースの引き上げが進められています。物価高などの問題もあり、単にベースを上げるだけではなく、残業代の適正支給など、さまざまな問題に対応する必要があります。 また、保育士以外の事務職の方々の処遇についても支援が必要か検討しています。保育園の園長先生や理事長先生たちとの会合でも意見を伺っており、保育士の処遇改善に取り組んでいきたいと考えています。	—	健康増進課

地域別対話会（タウンミーティング）でいただいたご意見と回答　　R06.11.30　船穂コミュニティセンター

分類	NO.	対象地区	テーマ	参加者の発言	市長の発言	補足など	担当課
医療･介護･健康･福祉	8	共通	学校給食の残飯の廃棄について	コロナの影響か飲まない牛乳を流しに捨てる指導をしていて、多い学校では1日100本を廃棄している。教育上食べれるものを流しに捨てる。汚染されたものをきれいにする水などの問題になってくる。何とか再利用してほしい。未開封の牛乳はなんとかなるのではないか。	給食の残飯についてですが、驚くほど多く、約2割が余っているそうです。栄養士の方々が必要な量を見積もって準備しているので、本来はすべて食べてもらう必要がありますが、子どもたちの食が細くなっているため、食べきれないのが現状です。先生方も子どもたちに食べるよう促していますが、私が子どもの頃のように「食べ終わるまで席を離れられない」という方法は、今では難しいところもあります。 この問題に対して、先生方の協力を得ながら、残飯の再利用についても考えていく必要があります。現在、吉田地区に新しいクリーンセンターを建設中ですが、ニュータウン中央にある現クリーンセンターよりも容量が少ないです。省エネ社会を見据えて容量を少なくしていますが、印西市の人口増加に伴い、ごみの総量も増えています。新しいクリーンセンターに対応できるまでごみを減らすことができていないのが現状です。 この再利用の問題は学校給食に限らず非常に重要ですので、どうするかを検討し始めています。	—	学校給食課 クリーン推進課
教育･子育て	9	共通	国際交流の機会について	来年の夏休みに国際交流の団体を受け入れることが決まりました。何か行政と一緒に協力出来たらと考えています。子どもたちの一日は非常に重要であると考えている。交流を通じて子どもたちの主体性などが育まれる機会になればと考えています。	私も昔、留学や中学時代にホームステイを経験しました。現在、印西市では夏に中学生をオーストラリアに派遣する事業を行っています。たとえ1週間でも海外に行くと、子どもたちの視野が大きく広がります。海外を知ることは、子どもたちの将来にとって非常に重要だと思いますので、可能な限り応援し、取り組みを進めていきたいと考えています。	—	企画政策課
教育･子育て	10	共通	国際交流の機会について	世界に発信できる子どもたち、また印西市を世界に発信できればと考えています。		—	企画政策課
教育･子育て	11	共通	海外企業から国際教育の支援について	世界のINZAIとデータセンター業界では言われているくらい、注目されている。そういった方々に学校に来ていただいて授業をおこなっていただくことはできないだろうか。		—	指導課
医療･介護･健康･福祉	12	共通	地域福祉計画の見直しについて	福祉分野の上位計画である地域福祉計画が形骸化していると感じる。ぜひ計画の見直しをして、地域に暮らしている人にとって教育、子育て、医療、介護、福祉について寄り添った計画を作っていただきたい。	地域福祉計画の形骸化についてですが、これは地域福祉計画に限らず、計画そのものが形骸化しているのが現状です。行政の良くないところは、計画を作ることが目的になってしまっている点です。これは印西市だけでなく、どこの自治体でも起こっている問題です。 私がやりたいのは、住民に寄り添った実のある計画を作ることです。目的が明確で、その目的に到達するための筋道が示されている戦略的な計画が必要です。そこで、抜本的な見直しをかけようと思っています。 市の総合計画は10年間の最も重要な計画であり、その下に5年ごとの基本計画があります。基本計画の改定が来年度に迫っており、来年度から新しい計画が実行される予定です。現在、見直し作業を始めていますが、このタイミングで多くの計画が改定されます。 計画のボリュームは少なくても良いと思います。300ページの計画よりも、15ページでも意味のある戦略や目標が明確に書かれている計画の方が重要です。みんなが読みやすい計画を作るために、計画の作り方そのものも見直しを始めています。	—	社会福祉課
医療･介護･健康･福祉	13	共通	民生・児童委員について	妻が民生委員を務めていたがその大変さを知ってほしい。印西市は民生委員のなり手がいなくて大変なことになっている。	民生児童委員の不足は全国的な問題であり、印西市でも各地区ごとに定員が設けられていますが、ほぼ全ての地区で定員割れが発生しています。先日、民生児童委員の方々が各地区の代表者と集まり、現状について話し合いました。その中で、負担を軽減するための具体的な方法が見つからないという課題が浮き彫りになりました。 例えば、やり取りが紙ベースで行われたり、直接訪問しないとコミュニケーションがとれないなどの問題が散見されました。これらの負担を軽減し、多くの方々に参加していただける環境を整えることが重要です。この問題は自治会や町内会などの地域活動全般にも共通しており、担い手が不足している現状があります。 その理由の一つは、皆さんが働いていることです。特に女性の方々は多くが働きに出ており、専業主婦のモデルはほぼなくなっています。また、シニアの方々も退職後に働いているケースが多く、70歳を超えても働いている方が多いです。このような構造的な問題があるため、負担を軽減しつつ、新しい人材を配置する必要があります。 私は「地域コーディネーター」という制度を提案しています。これは行政側の職員として、担い手の方々を支援する役割を担う人材を配置するものです。来年度には試験的に一部の地区で導入し、再来年度には全市に広げることを目指しています。また、交通費を含めた経費の負担が赤字になる方も多いため、これらの問題にも対応していきたいと考えています。	—	社会福祉課
医療･介護･健康･福祉	14	共通	高齢者のスマートフォン支援	—	高齢者のスマホ支援について、私は様々なスマホの種類があることよりも、スマホの使い方をしっかり教えることが重要だと考えています。市の行政サービスもスマホで利用できるものが増えているため、スマホの使い方支援を強化する必要があります。	—	高齢者福祉課

地域別対話会（タウンミーティング）でいただいたご意見と回答　　R06.11.30　船穂コミュニティセンター

分類	NO.	対象地区	テーマ	参加者の発言	市長の発言	補足など	担当課
医療・介護・健康・福祉	15	共通	介護を取り巻く環境について	コロナの影響によって介護専門職と地域の間が分断された状況が継続していると感じる。介護の職員の活動は地域支援になる。うまく取り込んで活用することで人材不足などの様々な課題解決につながる。 また介護の世界は地域共生社会とうたわれているが縦割りの現状がある。障害は障害、介護は介護ではなく繋がりを密にすることが重要と考えるので、そういった面で市とも協力していきたい。	今、「重層的支援」という少し難しい言葉が国で使われています。これは、支援の対象となる方々が多様であることを意味しています。シニアの方々だけでなく、様々な障害を持つ方々や、不安定な家庭環境にある方々など、幅広い人々を切れ目なく支援することを目指しています。 印西市もこの取り組みを始めていますが、まだ十分に機能していません。その理由の一つは、縦割りの行政構造です。この縦割りを打破するために、市長や副市長が中心となって動き始めています。特に、副市長は福祉部長としての経験があり、最近では保健師の方々も加わっています。保健師は年代や対象を超えて様々な方々を支援しており、領域を超えた支援が求められています。 しかし、どうしても縦割りの壁が存在するため、まずは保健師の中で横の連携を強化しようとしています。非公式ではありますが、副市長が主導して会議体を立ち上げました。この取り組みについては、今後さらに具体的な情報が出てきたらお伝えしたいと考えています。	—	福祉部
インフラ・防災・防犯	16	共通	給水区域について	印西の全域を給水地域にしてほしい。請願も出ている。インフラ整備は20年、30年かかる。市民の賛成と協力が必要だ。印西に住んでいる人は平等にしてほしい。	私の家のある山田地区も井戸を使用しています。 井戸を使用しているため、さまざまな方々から井戸に関する問題やニーズが寄せられています。特に水質の問題が多く取り上げられます。幸い、私たちの井戸水は問題ありませんが、山田地区の一部ではヒ素が検出されたり、水質が非常に悪かったり、臭いが強いなどの問題が発生しています。 このような背景から、給水区域の拡大が求められています。水道の給水区域に入らないと水道が引かれないため、この区域を広げる必要があります。しかし、印西市の水道問題は非常に複雑です。理由は、3つの異なる水道事業者が存在するためです。 千葉ニュータウンは県の水道を利用しています。千葉ニュータウン以外の地域で、本埜の奥の方、例えば安食ト杭や酒直ト杭など、栄町に近い地域は長門川水道企業団で木下、大森、小林地区などの地域が市営水道の対象です。 このように多くの主体が関与しているため、特に市営水道は慢性的に赤字です。収益性が高い地域は県が担当しているため、市営水道は収益が上がらず、毎年一般会計から税金の一部を投入して運営されています。 私は30年後、50年後に持続可能な事業にするために、今何をすべきかを考えています。まずは各地域にアンケートを取り、地域のニーズを把握しています。アンケートを通じて、水道を引くための費用や毎月の支払いについても説明し、必要な方がどこにどれくらいいるかを見える化しています。 これを踏まえ、行政区域については投資的にも収支的にも見合う地域を優先的に給水区域として設定しています。しかし、水質が悪い地域もあります。水を運んでいる話もありましたが、根本的には安心安全な水を飲めるようにすることが重要です。 井戸水で水道から遠い地域でも、水質が悪い場合は水を買う費用を助成するなどの対策を考えています。市の状況を把握し、この問題にしっかり取り組んでいきます。水質検査についても市役所内で検討しており、全額は無理でも何かしらの対応を検討しています。	—	水道課
インフラ・防災・防犯	17	共通	井戸水の水質検査について	船穂地区に住んでいますが水道水にならないのであれば水質検査を無料にしていただきたい。		—	環境保全課
インフラ・防災・防犯	18	共通	利根川の防災対策	水位計を設置して、市民に水害リスクの情報を伝えることが必要と考える。	利根川のリスクもありますが、特に打ち水の問題が重要です。手賀沼から流れてくる水が氾濫しやすく、昭和初期には木下や大森などが何度も水浸しになりました。この問題を解消するために、中央公民館の横に大きな排水機場を設置し、現在新しくしようとしています。まずはそこで打ち水の被害に対応しようとしています。 市街化が進む中で、アスファルトによって水がどんどん流れ込んでくるため、この問題に対処する必要があります。また、利根川だけでなく、ニュータウンの街中やその周辺でも同様の問題が発生しています。市街地が広がる中で、水が一気に川に流れ込むことはニュータウン地域でも変わりません。特にニュータウンのすぐ横には師戸川が流れており、ここも氾濫しやすいです。 そのため、街全体として水を吸収するような環境を整える必要があります。具体的には、緑を増やす「グリーンインフラ」の導入が求められます。昨日もこのテーマに関するシンポジウムに参加し、議論を深めました。	—	防災課
インフラ・防災・防犯	19	共通	千葉北道路の延伸	千葉北道路の延伸	北千葉は様々な力を結集して頑張っています。成田空港から東京外環道路まで早くつなげることが重要であり、これは国にとっても大事な道路です。現在、成田空港から東京にまっすぐ行ける道路は東関東自動車道しかありません。この新しい道路を通すことは国にとっても重要であり、そのためにしっかりと取り組んでいきたいと考えています。	—	道路建設課

地域別対話会（タウンミーティング）でいただいたご意見と回答　　R06.11.30　船穂コミュニティセンター

分類	NO.	対象地区	テーマ	参加者の発言	市長の発言	補足など	担当課
インフラ・防災・防犯	20	船穂	防犯カメラ、街灯について	船穂地区には防犯カメラはあるかわからないが、街灯がほとんどない。近頃色々な事件が起きていて物騒なので整備してほしい。	街頭防犯カメラについてですが、来週から始まる議会で多くの議員から質問が寄せられています。特に防犯に対する関心が非常に高まっており、現在取り組みを検討中ですので、具体的な回答ができる段階になったらお知らせします。 現在、市からの助成金として1台あたり20万円が支給される制度がありますが、町内会や自治会による設置の利用が少なく、今年度の予算200万円に対して申請が0件となりそうです。設置場所の相談やプライバシーの問題もあり、話がまとまりにくい状況です。行政としてもこの制度をもっと活用していただけるよう、指示を出しているところです。	○防犯灯新規設置 ・周知方法　各自治会長宛てに新設調査書を通知。 船尾地区２６自治会 要望件数 Ｒ７年度分　４自治会 Ｒ６年度分　２自治会 ○防犯カメラ設置補助事業 ・周知方法　町内会自治会連合会総会にて資料配布。ホームページに資料を掲載。 船尾地区２５自治会 Ｒ７年度分　要望なし Ｒ６年度分　要望無し	市民活動推進課
インフラ・防災・防犯	21	共通	国道464号線のゴミ	撤去してもすぐにまたゴミが捨てられる状況がある。子どもが多い地域なので、子どもの手による看板などを設置してはどうだろうか。	これも大きな問題にして、例えばごみをきれいにしてくれた、ボランティアをしてくれた業者の方を少し入札を優遇するとか、少し民間のお力をお借りする中で、街をきれいにするってというか、できないかというところをちょっと今検討しているところです。	―	道路建設課
インフラ・防災・防犯	22	松山下地域	松山下～NTのアクセス改善、（安全性）（ふれあいバス） 464号線の混雑について	松山下公園からNTに行く坂道を自転車で買い物に行く方が多いが、30キロの制限速度を守らない車が多い。道は細く渋滞も多い。要望は出しているが改善されない。またNT方面に行くふれあいバスの本数が1日4本しかない。陸の孤島のようになってしまっているところを改善してほしい。 464号線の混雑で原山の自宅に入れないときがある。	国道464号線についてですが、これは県が管理している道路です。信号の切り替えなどについて相談を始めていますので、少しお時間をください。アクセス向上のための道路整備も検討中であり、詳細は後日ホームページに記載します。議事録にも合わせて記載します。 ふれあいバスについては、見直しを進めていますが、バス利用が難しい地域が増えています。例えば、地元の山田ではバス停まで歩いて15分かかり、高齢者には利用が難しい状況です。そのため、ふれあいバスの利用者は増えていますが、根本的には各家庭に直接行く必要があります。 現在、本埜地区限定でタクシー券の助成を行っていますが、来年からは助成区域を全域に広げる予定です。市としてもこの助成制度を利用していただけるよう案内を進めます。10年後には自動運転車が普及し、100円でどこでも行けるようになることを目指しています。それまでの間、行政として支援を続けていきます。	ふれあいバスの運行ルート及び運行ダイヤについて見直しを進めており、ふれあいバスの見直しと併せ、まずは、交通不便地域や交通空白地域における高齢者の移動手段の確保のため、タクシー利用助成事業の対象地区を市内の市街化調整区域の地区すべてに拡大することで、準備を進めているところでございます。	道路建設課 交通政策課
教育・子育て	23	共通	里山を活かした教育について	里山を教育子育てに活かしてほしい	里山は本当に市の財産です。現在言えることは、やれることは何でもやるということです。	―	指導課 環境保全課
教育・子育て	24	共通	行政との連携について	子どもたちに自然と触れ合う体験をしてもらう活動をしている。場所をどういう風に使えるかという問題、寄付をしていただけるという話があったりする。行政と協力してやれたらいいなと考えている。グループ別対話会を利用して詳しく話したいと考えている。		―	指導課

地域別対話会（タウンミーティング）でいただいたご意見と回答　　R06.11.30　船穂コミュニティセンター

分類	NO.	対象地区	テーマ	参加者の発言	市長の発言	補足など	担当課
地域づくり	25	共通	ヤードについて	ヤードの規制についてどう考えているか。千葉県にとても多くその中で、印旛地区には354か所県全体の69.4%がある。自分が住んでいるところも何か所か出来て残念です。ヤードの規制条例化についてどう考えているか。 ヤードが鉄板で囲われているが条例で規制することはできないか。	県でも条例で規制をかけていますが、現在最も厳しい条例を導入しているのは千葉市で、その次が四街道市です。これにより、規制が緩い地域に問題が集中する懸念がありますので、私たちも規制を強化していきたいと考えています。 太陽光発電については、自然豊かな地域では景観の問題があるため、私は比較的ネガティブな立場です。しかし、各家庭に設置することは災害時に役立つため、賛成しています。特に調整区域や在来地区では、自分たちで電気を作ることがインフラ維持のために重要です。この観点から、在来地区の建物の活用を進めるべく検討を進めています。 この地域が衰退しないよう、活用しやすい仕組みを作ることが必要です。移住定住のコーディネーターを設置し、地域を活用したい方々と建物をつなぐ役割を担ってもらうことを考えています。	―	環境保全課
地域づくり	26	共通	ヤード規制について	実家の岩戸地区で地下水を使用しているが、水の数値がどんどん悪くなっている。		―	環境保全課
地域づくり	27	共通	在来地区建築物の活用について	設計と工事の関係で50年近く働いていた。マニフェストを拝見して新しいものを造ろうとしているのかなと感じた。今ある在来の建築物をできるだけ生かしていく必要がある。初期費用とランニングコストが非常にかかる。若い世代に負担を残すことになるので、今ある可能な限り建物を活用していくことを提案したい。		―	環境保全課
インフラ・防災・防犯	28	牧の原	空地の利用について	印西牧の原駅周辺の空き地の今後の予定	牧の原駅周辺の土地についてですが、これは某民間業者が所有しており、まだ活用の用途は決まっていないそうです。駅前の一等地であるため、私の理想としては住むことと働くことが共存するような施設を作りたいと考えています。 この土地については、業者と議論を重ね、市にとって必要な施設を作っていこうと思っています。また、電大の場所についても様々な検討が進められており、市としても議論を行っています。駅から徒歩10分で20ヘクタールという広大な場所であるため、地域にとって意味のあるものにするべく議論を進めています。時間がかかって申し訳ありませんが、なるべく早く答えを出せるように努力しています。	―	企画政策課
地域づくり	29	武西地区	東京電機大学の敷地活用について	今後どう活用できるのか。気になっている。		―	企画政策課
地域づくり	30	共通	国際都市としてのまちづくり	国際都市としてのまちづくりの絵がなかったのではないか。市長に国際都市に向けてのまちづくりをしてほしい。	非常に重要な話をしていただきました。このまちには「絵」がないのです。千葉ニュータウンはかつて失敗したニュータウンと言われていました。その理由は、土地の買収が進まず、土地が小さく不規則な形になったこと、そして入居が進まなかったことです。また、鉄道の運賃が高いという問題もありました。 しかし、土地の規制を緩和することで、ジョイフル本田や様々な商業施設、データセンターが集まり、結果的に成功しました。これはこれまでの成功パターンとして良かったのですが、弊害も生じています。例えば、雇用の創出がほとんどなかったことです。税収は安定しましたが、ニュータウンの駅近くまでデータセンターが進出しており、都市計画上の規制ができない状況です。 私はこの都市計画を見直し、地域に合ったものが配置されるようにすることを考えています。これを1期目の任期中に必ず実現したいと思っています。また、地域間の接点を増やし、地域を超えて多くの人々が交流できるまちにすることが重要です。みんなに優しいまちを目指していきたいと考えています。	―	都市計画課
産業・観光・農業	31	共通	データセンターの雇用について	データセンターで働いている人数を調べてほしい。それをもって印西市に寄与しているかどうかをデータとして明確にしてほしい。		―	経済振興課
医療・介護・健康・福祉	32	共通	市民アンケート調査の質問数について	市から届いたアンケート（地域福祉計画）の問いが39問ありました。20分以上かかるので適当に回答してしまう。検討してほしい。	簡素化します。	―	社会福祉課

地域別対話会（タウンミーティング）でいただいたご意見と回答　　R06.11.30　船穂コミュニティセンター

分類	NO.	対象地区	テーマ	参加者の発言	市長の発言	補足など	担当課
医療･介護･健康･福祉	33	船穂地区	ゴミの集積所について	船穂地区はごみの集積所が少なく、車を利用しないと出しに行けない。高齢者で運転もできなくなっているのでごみの集積所を増やしてほしい。	自治体によっては、自宅前で回収する運用を行っているところもあります。そういった方法も検討していきます。	当市におきましては、宅地開発に伴うごみ集積所の増加等により、予定時間内の回収が難しくなりつつある状況でございますが、市民の皆様の利便性や地域の実情等を踏まえ、ごみ集積所を設置することは必要なことと認識しております。 利用世帯数や周辺の道路状況等の条件はございますが、ごみ集積所の新設を申請することは可能となっておりますので、地域としてご希望される場合は、クリーン推進課にご相談ください。	クリーン推進課
市役所づくり	34	共通	市長選挙の投票率の向上について	民主主義が健全に機能するには50%を超える必要があると思っている。6人の人が立候補した印西市の未来を決める重要な選挙に関わらず50%を超えなかった。選挙管理委員会は前回より投票率が上がったことに安心するのではなく、民主主義を機能させるために投票率を上げる工夫をしてほしい。世代別の投票率を広報紙などで公開し、その結果で投票率が上がる施策を検討する必要がある。	市長選の投票率についてですが、確かに5割を切っています。私も5割程度だと思っていましたが、実際にはそれ以下でした。今回の市長選では、当日までSNSが一切使ってなかったことも影響したと思います。先の総選挙では、毎日SNSで投票の呼びかけや期日前投票の案内を発信していましたが、それでもまだ十分ではないと感じています。 兵庫県知事選挙では、投票率が前回から15ポイント上がったという事例があり、これは一つのヒントになると思います。何かしらの方法で関心を持ってもらえれば、投票率は上がると考えています。ちなみに、投票率は年代別に比例しており、20代、30代、40代、50代といった具合に、今回の市長選でも大きな変化はありませんでした。	―	選挙管理委員会事務局
市役所づくり	35	共通	政治家の不祥事	政治家の不祥事が相次いでいる。市長には投票してよかったと思える4年間にしてほしい。	起こさないように頑張ります。	―	秘書広報課